

2021年08月17日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【アフガニスタン情勢はリスク回避(リスク・オフ)】

アフガニスタンの反政府武装勢力タリバンが、首都カブールの大統領府を掌握した。

バイデン米国大統領は、自身のアフガニスタン駐留米軍の撤退方針を擁護している。

バイデン大統領は、アフガニスタン政府高官らが同国から脱出したこと、そして、アフガニスタン軍がタリバンと積極的に戦わなかったことを非難している。

バイデン大統領の政策、及びその対応の是非は、諸説出るのであろう。

すでに、トランプ前大統領は、アフガニスタンでの事態の責任を取って、バイデン大統領が辞任するように、要求をしている。

ただし、米軍のアフガニスタン撤退を決めたのは、当時、米国大統領であったトランプ氏自身であった。

それを踏まえると、トランプ前大統領の要求は、説得力に欠ける。

++++  
++++

このコラムでテーマにしたいのは、米国の対応の是非ではない。

また、タリバンに対して、世界の諸国が、今後、どう対応するのか、それぞれの国によって立場が異なるので、バラバラになることが予想される。

だから、アフガニスタン情勢の混乱が収まるまでに、今後、それなりの時間が必要であることは確実であろう。

++++

「外国為替市場が、このアフガニスタン情勢を、どうとらえるのか？」

それを、今の時点で、考えたい。

現在のアフガニスタン情勢は、地政学的リスクを高めることとなり、外国為替市場は、リスク回避(リスク・オフ)の行動に出易い。

換言すれば、日本円と米ドルは、リスク回避（リスク・オフ）を理由に、共に買われ易い。

そして、日本円と米ドルでは、リスク回避（リスク・オフ）を理由にするならば、円高に進み易い。

+++++

上記を具体的に言い直せば、以下の通りになる。

ユーロ／米ドルは、「ユーロ安／米ドル高」

豪ドル／米ドルは、「豪ドル安／米ドル高」

ドル／円は、「ドル安／円高」

ユーロ／円は、「ユーロ安／円高」

豪ドル／円は、「豪ドル安／円高」

※米ドル、ユーロ、日本円、豪ドルを、代表的な通貨として選んでいます。

+++++

+++++

(2021年08月17日東京時間15:00記述)